

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2570300430
法人名	医療法人 あいち診療会
事業所名	グループホーム いろり庵
訪問調査日	平成 20 年 7 月 8 日
評価確定日	平成 20 年 7 月 20 日
評価機関名	ニッポン・アクティブライフ・クラブ 滋賀福祉調査センター

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2570300430
法人名	医療法人 あいち診療会
事業所名	グループホーム いろいろ庵
所在地	滋賀県長浜市野瀬町743番地 (電話)0749-76-8181

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブ・ライフクラブ 滋賀福祉調査センター
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432番地 平和堂和邇店2階
訪問調査日	平成20年7月8日

【情報提供票より】 20年7月6日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成17年 5月 7日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤	7人, 非常勤 0人, 常勤換算 7人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り 1階建ての 1階
------	-------------------

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	13,500 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—	
食材料費	朝食	— 円	昼食	— 円
	夕食	— 円	おやつ	— 円
	または1日当たり		1,400 円	

(4)利用者の概要(6月18日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	92 歳	最低	86 歳	最高	96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	あざいりハビリテーションクリニック
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

長浜市の北東、農村里山地帯に小学校と向かい合って位置し、元幼稚園舎を改装して開設された160坪の広くゆったりとしたホームである。庭の前には小学校のプールがあり子供達の元気な泳ぎや歓声、学童の頻繁な来訪に利用者は心癒される。更にホームの講堂(遊戯室)を多目的に活用し、週1回の筋トレ教室やレクリエーション、2ヶ月に1回開講の認知症セミナー等の開催を通じて地域に開放している。一方、利用者が安心して此処が終の棲家となれるよう体制を組み健康管理、終末ケアに医療法人あいち診療会が全面バックアップして運営している。更に利用者家族と一体となって利用者のケアを実施する事を理念の一つとして運営している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では家族会の結成を改善課題としていたが利用者家族が一堂に話しあえる場として家族会を食事会(バーベキュー)として結成した。家族同士が話し合う(職員は入らない)土壌作りが出来た。今後は継続して行う事により家族会としての信頼強化が期待される。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全員の自己評価をマネージャーがまとめ、サービス向上委員会で討議し改善すべき点や指摘項目(外部評価、運営推進委員会、家族からの意見)に優先順位をつけ取り組んでいる。職員のストレス軽減や地域との更なる交流を優先課題として取り組む。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回開催している。討議内容は、活動の報告、認知症セミナーについての説明、自己評価と外部評価の取組み項目、地域との関り(地域行事への参加)家族会の発足、防災訓練等、委員からの質問や意見提案について活発な討議を展開している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族は月1回以上の頻度で訪問している。来訪時にはマネージャー、担当職員が利用者の暮らしぶり、身体状況、金銭出納等、多岐に亘り話し合いをしている。家族同士が不安、疑問を話し合う家族会(食事会)を結成した。職員は話し合いの中に入らず意見等は後程聞き取り改善につなげている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域(野瀬地区)の行事への参加の幅を広げる(清掃作業に新たに参加)。小学生とのつながりが学校を動かし、学校行事の中にグループホームとの交流が定常化している事は特筆される。グループホームの講堂を地域への開放(週1回の筋トレ教室)する事が定着化し、地域に於けるホームとの連携は強い。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「認知症老人にその生涯が終わるまでの安住の地を提供し認知症の老人が家族及び地域の人々と良好な関係を持ち続けられるよう支援する」という理念の下、終の棲家として安心して過ごせるよう地域と「共生」を図り、その活動をグループホームが推進役を担っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はホーム内に掲示している。職員採用時に理事長より理念の啓蒙と教育を行っている。マネージャは具体的な事例の中から職員に話し合いをして共有化に努力している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの講堂で週1回、地域高齢者対象の筋トレ教室を行っている。自治会に加入し、地域の春祭り、秋祭りなどに参加している。学童の通学時に利用者は見守り運動を行っている。母体のあいち診療会が地域を巡回する無料バスを提供し、買物や郵便局への利用などにも利用され地域の生活利便に貢献している。		地域が行う学童の見守り運動に利用者も参加したことなどから、学童が親近感をもち小学校との交流が活発になった。これらの活動を評価すると共に地域への波及を更に期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で取り組みサービス向上委員会で話し合いをした。課題は10件計上し優先順位をつけて評価結果整理表にまとめ、推進チェックを行い改善活動を行っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催している。グループホームの自己評価、外部評価、災害対策、家族会等の活動報告と意見や提言が出ている。会議で提起された課題はサービス向上委員会で話し合い、ホームの運営に反映させている。		自治会長が勤務の関係上運営推進会議に出られないのであれば副会長に出席を求め、会長が出席できる時間に開催するなどの配慮をして地域住民で支えあう意識の定着を図る努力をされたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム母体の、あいち診療会主催・長浜市後援で「認知症セミナー」を行っている(9回開催)。介護相談委員の受け入れをしている。滋賀県の『湖北地区障害者働き、暮らしの応援センター』の要請で1週間2名の実習生の受け入れをしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りは3ヶ月ごとに発行している。家族は毎月利用料精算のため訪問している。その時に時間を掛けて利用者の暮らしぶり、健康状態、金銭出納等の報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の家族は頻繁に訪問し、その都度利用者の家族と意見や要望を話し合い記録に残しスタッフの共通の課題としてサービス向上委員会で対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者の性格に合った職員が担当している。異動時のダメージは少なくするためにも、姉妹グループのあざいクリニックの職員も常時ホームへ訪問し馴染みを作っている。職員の退職を避けるために就職希望者に試用期間を設けホームの雰囲気や馴染めるか、利用者との相性は、など両者が確認して採用としている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体のあざいクリニックの研修にホーム職員は参加している。湖北地区グループホーム連絡協議会の(2ヶ月に1回)や職員交換研修に参加している。グループホーム協会の全国大会に出席し体験発表や意見交換などを行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	湖北地区のグループホーム連絡協議会で、利用者、家族、職員等合わせて80名で合同リクレーションをした(会場はいろり庵)湖北地区グループホーム間で交換実習に毎回1名を参加させ資質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用申込者に対し2週間から1ヶ月お試し期間を設けている。利用者の生活歴、性格など事前調査を行い、入居前から利用者に面接し、なじみを作り、話しかけ、馴染めるよう努力している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	梅干づくり、奈良漬づくり等の保存食や野菜の育て方など教えられる事が多い。又職員と共に誕生会のお祝いケーキ作りを楽しんでいる。利用者を看取った職員の落胆を利用者たちから、家族や関係者に看取られて生涯を閉じられた幸せを感じとるべきと励まされ良い教訓を貰った。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の意思表示の弱い人、言葉数の少ない人達の意向把握に生活歴、性格、等を家族、知人、親戚、からの聞き取りや日々の接触、観察の中からフェースシートに取り上げて意向把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は3ヶ月毎に定期的に見直している。その方法は利用者を一括して行うのではなく3人程度ずつ毎月順番にモニタリングしている。利用者の日々の生活記録やケアマネージャ、担当職員の意見から介護計画を作成し家族や医師などの意見などを織り込み全員でカンファレンスをしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態変化時にはその都度見直しをかけている。医師、看護師の指示や、家族等の意見を聞き、ケアマネージャと担当者が新たな計画書を作成し、家族の同意を得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の個々の身体状況や希望に合わせて個別ドライブに出かけたり、墓参り、仏壇参り、買い物等移送支援をしている。講堂で「筋トレ教室」に利用者を参加させ地域の人々との交流を図っている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域住民の唯一の主治医であるあざいクリニックとグループホームの契約医が重なり、その関係から頻繁な往診で初期症状のうちに適切な医療を受けられる体制を敷いている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	姉妹グループのあざいクリニックが24時間の管理体制で、利用者の健康管理を担っている。入居時に家族と医師や担当者、ケアマネージャ、看護師等で終末期のケアについて確認しあっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人権擁護研修会に参加し人権や個人情報の取り扱いの勉強をした。人格を傷つけるような声掛けはしない、愛称や名前で呼称する事について尊厳とプライバシーを大切にしている。大きな声でトイレに誘うような事はしない、便や尿も職員だけの隠語で話している、		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	菜園、学童見守り(あいさつ隊)、食事の後始末、裁縫など能力に応じた生活スタイルを支援している。天気の良い日にはテラスでボールゲーム等している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は配食で職員と共に喫食している。利用者希望のメニューは献立に取り込んでいる。利用者とは共に調理を楽しむためにホーム独自(囲炉裏)で鍋料理やそうめん料理等も献立として楽しんでいる。またレストラン等の外食やピザなど買出しに行き食事の変化に心掛けている。		
23	57	○入浴を楽しむことのできる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	殆どの利用者が毎日入浴している。恐怖心を取り払うため馴染みの職員で入浴介助をしている。毎日好む時間帯に入浴をし薬草やゆずの入浴剤を使い分け雰囲気に変化を持たせゆったりと風呂を楽しんでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	野菜作りをする人、裁縫をする人、学童見守り、学童の定期的な訪問(月1度)やホーム講堂での地域に開放された筋トレ教室への参加と終了証の取得意欲や訪問者との対話、ホーム前のプールで泳ぐ子供達を眺めるなど日々の楽しみと変化に張り合いづくりに努力している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	花見、蛍祭り、盆梅展見学、多賀参りなど外出支援している。利用者個々の外出支援もしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵は掛けていない。夜間は防犯上鍵を掛けている。徘徊があっても利用者の自宅付近で落ち着くのでその近隣の人々に協力をお願いしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	耐震対策は補強工事済み。災害時の地域の避難場所にグループホームが指定されている。年2回の通報訓練、避難訓練、消火訓練を実施している。電話は119専用ボタンがある、懐中電灯、ラジオ等の防災用具一式を設置している。緊急連絡網、避難経路図、消火体制のマニュアル、フローチャートが整備できている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によりカロリー計算をした献立となっている。食事後、おやつ時間など飲用の機会を多く取り、その都度飲用量を確認し、利用者に必要な水分補給をチェック表で管理している。繊維質の多い季節の果物や野菜などを多くとるように配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間とキッチン是一体となりホームの広い居間には畳コーナーが設置され日当たりの良い共用空間である。居間から小学校の校門やグラウンドが展望出来、里山風景も楽しめる。また窓越しに小学校のプールがあり児童の泳ぎや歓声に心和ませている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は洋室となっているが和室に代えられる設計となっており和室利用者も居る。居室には利用者の手作り作品やイベント写真が飾られ利用者の好みが見える。筋トレ教室の終了表彰状が誇らしく掲げられている。		利用者が使い慣れた家具や思い出の品の持込をするよう努力されたい。